

別紙2

東吉野村小川地区まちづくり基本構想

平成31年4月

目 次

はじめに 東吉野村小川地区まちづくり基本構想とは	1
1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)	2
(1)東吉野村の位置・地勢	2
(2)東吉野村の沿革と特徴	3
(3)東吉野村の人口、世帯数	4
(4)東吉野村の就業構造	5
(5)東吉野村の産業	6
(6)東吉野村の観光	7
(7)東吉野村を取り巻く観光状況	8
(8)関連する政策・計画等	9
(9)関連する取組の状況	11
(10)住民意識	12
2 小川地区の現状と課題(内部環境)	13
(1)小川地区の位置と交通・道路状況	13
(2)小川地区の人口、世帯数	13
(3)小川地区の公共施設、土地利用、産業	14
(4)小川地区の観光、地域資源、景観	15
(5)地域住民と移住者等の意向	16
(6)小川地区のまちづくりに関する近年の動き	17
(7)先行計画における位置づけ	18
3 小川地区のまちづくりの課題	19
(1)小川地区の強みと弱みと取り巻く状況	19
(2)小川地区のまちづくりの課題	20
4 コンセプト・目標	21
5 基本方針	22
6 基本となる取組	23
7 まちづくり構想図	24

はじめに 東吉野村小川地区まちづくり基本構想とは

(1)まちづくり基本構想とは

奈良県は市町村と「まちづくり連携協定」を締結し、構想段階から事業実施まで一体的なまちづくりに取り組んでいます。

具体的には、まちづくりを検討する地区を定め、その方針について県と市町村で合意した場合、「包括協定」を締結し、協働でまちづくりの基本構想を策定します。

(2)小川地区まちづくり基本構想とは

平成 29 年 3 月 14 日に「奈良県と東吉野村とのまちづくりに関する包括協定書」を締結しました。その中で、まちづくり基本構想を策定する地区を「小川地区」と決めました。

小川地区は、東吉野村の中心とも言える地区です。役場や小学校、森林組合、商店や飲食店、銀行、医療機関などが集積しています。特に、林業が盛んであった昭和 30～40 年代には、さまざまな商店が立ち並び、多くの人でにぎわった場所です。しかし、人口減少、少子高齢化の中で、まちは衰退し続けています。

そうした中、近年、村全体及び奥大和の移住拠点としてオフィスキャンプが開設され、クリエイター等の移住者も住み始め、空き家を活用したチャレンジショップも出店を開始しました。地元では、小川のまちづくり協議会が設立し、住民のまちづくりの気運が高まっています。

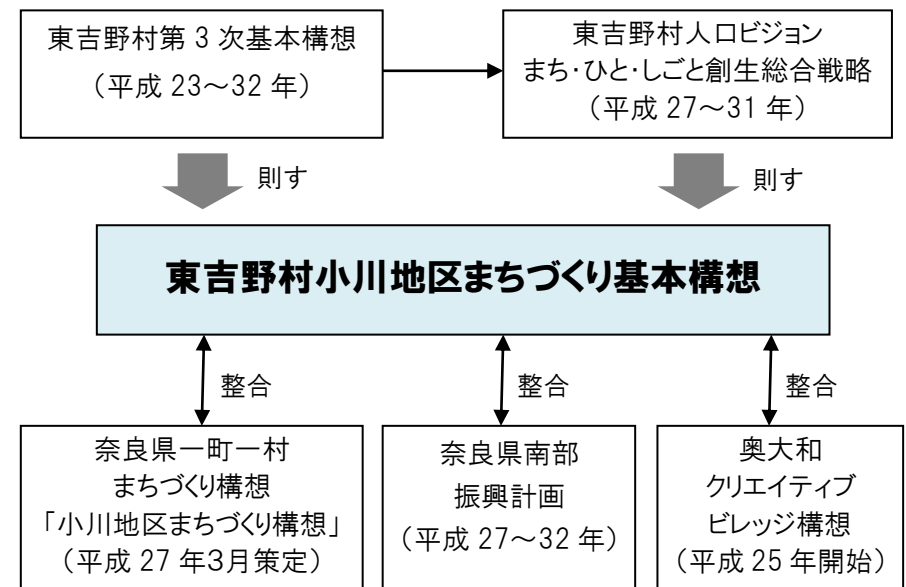
また地区周辺には、天誅組の記念碑やニホンオオカミ像などの観光資源もあり、集客の可能性も高い地区と言えます。

そうした上記のような条件が揃っている小川地区でまずはまちづくりの成果を出すことを目標とします。そして、それを村内の他の地区にも波及させていき、村全体の活性化に資するまちづくりに展開していくことをめざします。

(3)小川地区まちづくり基本構想の位置づけ

小川地区まちづくり基本構想は、下記の図のように、「東吉野村第 3 次基本構想」及び「人口ビジョン／まち・ひと・しごと創生総合戦略」を上位計画とし、関連計画と整合するものです。

また、今後、小川地区まちづくり基本構想策定後は、それに基づき基本協定を締結し、基本計画策定、そして、個別協定を締結し、事業実施を行っていく予定です。



1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(1)東吉野村の位置・地勢

東吉野村は奈良県の南東部、吉野郡の北東部に位置し、東は高見山(標高:1,249m)、国見山(標高:1,419m)などを境として三重県松阪市に接している。南は川上村、西は吉野町、北は宇陀市に接しています。

年間平均気温は 13℃前後とやや低温で、年間降水量 1,774 mm と比較的降水量が多く、樹木の生育に適した地域です。

東吉野村の面積(13,160km²)の約 96%を山林(林野面積:12,602km²)が占め、林業は昔から基幹産業として村を支え、東吉野の木材は伝統の技術で育

林され、その品質は高く評価されています。

村を流れる河川は、吉野川の上流にあたり、三重県境の高見山、国見山、明神平(標高:1,323m)などを源流とする高見川(村内流路延長:22,300m)、四郷川(同:13,200m)、鷲家川(同:9,800m)などが東方より流れています。

大阪都心部より約2時間、奈良市内から約 1 時間 30 分の距離に位置し、近鉄大阪線榛原駅と本村を結ぶ路線バスが運行されています。

東吉野村の位置・地勢



■東吉野村の概要

位置	東経 135 度 58 分 22 秒 北緯 34 度 20 分
総面積	13,160ha
林野面積	12,602ha
広ぼう	東西 15km、南北 14.9km
人口	1,745 人(H27 国調)
世帯数	830 世帯(H27 国調)

1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(2)東吉野村の沿革と特徴

■東吉野村の沿革

昭和 33 年3月1日町村合併促進法に基づき、小川村・四郷村・高見村の三村が合併し東吉野村となりました。

往古は、神武天皇東征ゆかりの地として、丹生川上神社や鳥見霊時にその事跡が偲ばれます。室町時代に至って、丹生川上神社神主小川氏が地方豪族として、小川荘(現在の東吉野村のほか、宇陀市大宇陀の大熊、東平尾、上片岡、下片岡)を統治しました。

その後、文禄4年豊臣秀吉が検地し、江戸時代には紀州藩領の鷲家を除いて幕府直轄領となり、明治元年奈良県管轄に入り、同3年五條県、同9年堺県、同14年大阪府、同20年再び奈良県統治下となりました。

同22年町村制の施行により鷲家口村等5か村が小川村に、三尾村等4か村(5か大字)が四郷村に、鷲家村等9か村が高見村にそれぞれ合併され、昭和24年高見村大字鷲家が小川村に編入されるなど幾多の変遷をたどって現在に至っています。

なお、平成の大合併においては、複数の合併協議を行いました。独立の道を選択し、行財政改革に取り組み、堅固な財政基盤の構築に力を入れてきました。

■東吉野村のおもな特徴

①豊かな森林資源

村の面積の約96%が山林で、そのほとんどを杉、桧が占めており、昔から吉野林業の中心地として、伝統ある育林技術や植林方法により、現在も良質の木材を産出しています。

②水源の村と豊かな水資源

村を流れる河川は、高見山を源流とする高見川に、支流平野川、四郷川、鷲家川がそそぎ、村の中心部を西流し、吉野町で吉野川に合流します。これらの河川にはダムがなく、豊かな森林から貴重な水資源を産む水源の村となっています。

③深い歴史と文化

古事記、日本書紀、万葉集などにおける神武天皇聖蹟、丹生川上神社、歴代天皇の吉野宮への行幸、室町時代に、後南朝から神璽を奪還し朝廷に返還した小川弘光をはじめとする豪族小川氏をめぐる史跡、江戸時代に、紀州藩主の参勤交代などでにぎわった村内を通る伊勢街道南路、明治維新の魁となった天誅組終焉の地、ニホンオオカミ最後の捕獲地など、数々の深い歴史を有しており、これを顕彰するとともに、大正初年頃に東吉野で居住し、新しい俳境を得た俳人原石鼎にちなんで「俳句の里づくり事業」を推進するなど歴史・文化の継承にも取り組んでいます。

④「吉野」という知名度と外部とのネットワーク

平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されました。東吉野村の村域自体は、世界遺産の区域に入っていませんが、「吉野」という地名や類似した歴史文化を持つ関連した地域として連携しています。また、友好都市、姉妹都市として大阪府堺市や高知県津野町・梶原町、愛知県刈谷市と連携を図っています。



1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

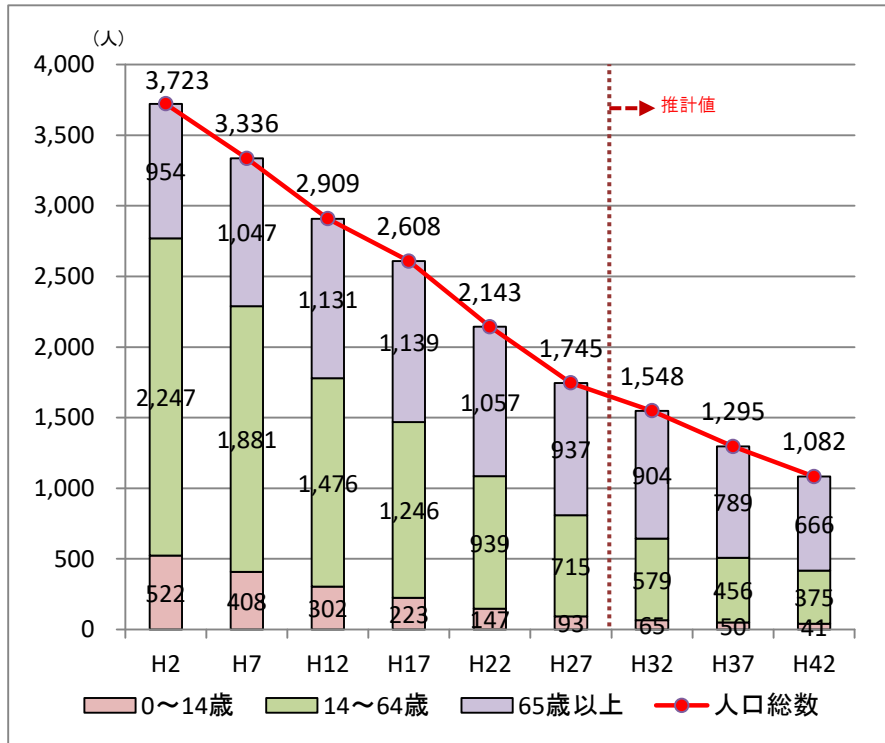
(3)東吉野村の人口、世帯数

東吉野村の人口は、昭和 35 年(1960 年)の 9,221 人をピークに減少し、平成 27 年 10 月 1 日の人口は、1,745 人、世帯数 830 世帯であり、過去 5 年間で、人口が 398 人、世帯数 105 世帯の減少しており、過疎化に歯止めがかからない状況にあります。

少子高齢化も著しく、平成 27 年の年少人口は 93 人(5.3%)にとどまり、高齢人口は、937 人(53.7%)となっています。

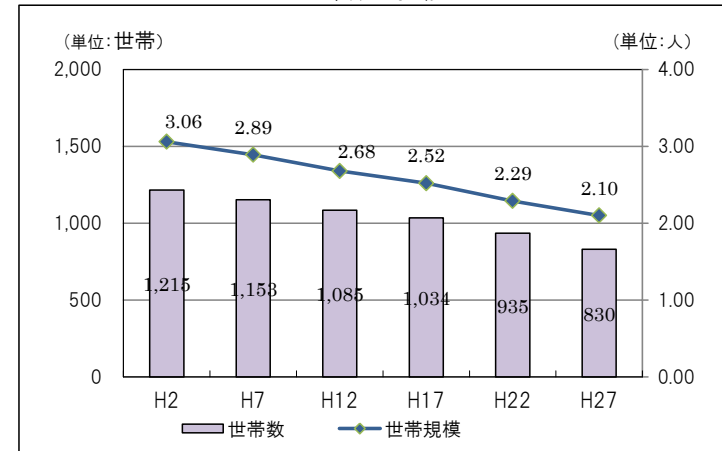
また、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると5年後の平成 32 年には 1,548 人、10 年後の平成 37 年には 1,295 人となることが予測されており、高齢化率も平成 32 年には 58.4%、平成 37 年には 60.9%となることが予測されています。

年齢別人口の推移と将来推計



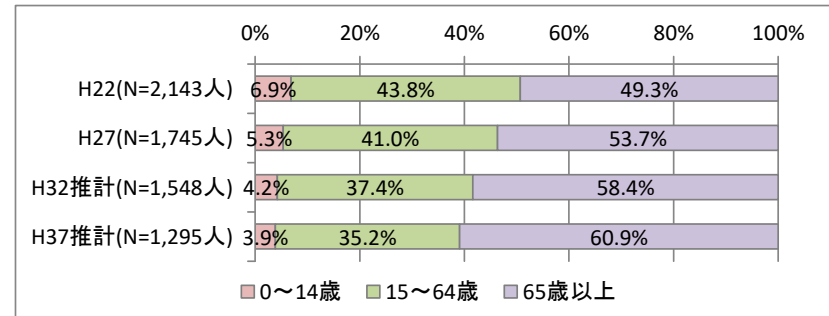
出所：国勢調査
国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 25 年 3 月推計）

世帯数の推移



出所：国勢調査

年齢別人口構成



出所：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 25 年 3 月推計）

1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(4)東吉野村の就業構造

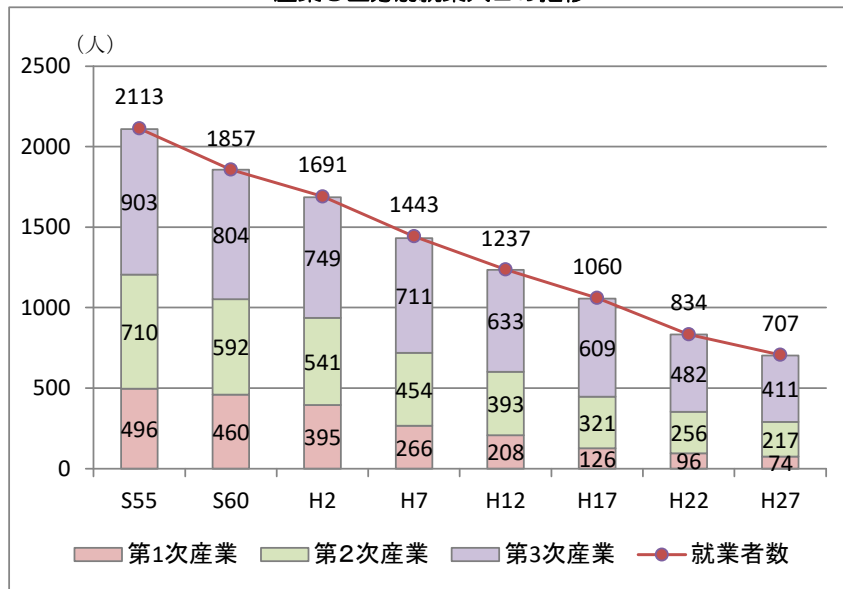
平成 27 年の就業人口は、707 人であり、うち第1産業が 74 人(9.6%)、第2次産業が 217 人(30.7%)、第3次産業が 411 人(58.1%)となっています。

従事する産業で最も多い業種は、「製造業」の 156 人(22.1%)であり、次いで、「医療、福祉」の 85 人(12.0%)、「農業、林業」の 74 人(10.5%)となっています。村の面積の約 96%を山林が占める本村は、昔から吉野林業の中心地として、伝統ある育林技術や植林方法により、良質の木材を産出する林業が基幹産業として村を支えてきました。

しかしながら、林業の長期にわたる構造不況により、第1次産業就業人口は、過去 15 年間で約 65%もの減少となっています。

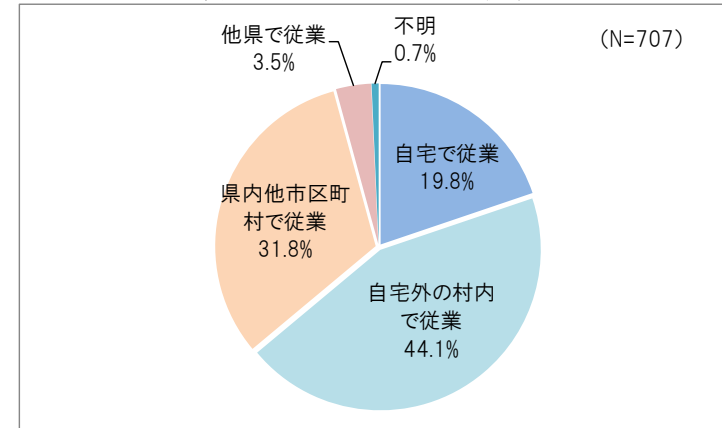
平成 27 年の就業人口 707 人のうち、約 64%が村内(「自宅で従業 19.8%」と「自宅外の村内で従業 44.1%」の計)で従業しており、一方、「県内他市町村で従業」が約 32%となっています。

産業3区分別就業人口の推移



出所：国勢調査

常住地による 15 歳以上の従業地



出所：H27 年国勢調査

常住地による 15 歳以上産業別就業人数

産業分類	総数	比率
総数	707	100.0%
A 農業、林業	74	10.5%
うち農業	17	2.4%
うち林業	57	8.1%
D 建設業	61	8.6%
E 製造業	156	22.1%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.3%
G 情報通信業	2	0.3%
H 運輸業、郵便業	24	3.4%
I 卸売業、小売業	66	9.3%
J 金融業、保険業	7	1.0%
K 不動産業、物品賃貸業	9	1.3%
L 学術研究、専門・技術サービス業	17	2.4%
M 宿泊業、飲食サービス業	31	4.4%
N 生活関連サービス業、娯楽業	29	4.1%
O 教育、学習支援業	27	3.8%
P 医療、福祉	85	12.0%
Q 複合サービス事業	21	3.0%
R サービス業(他に分類されないもの)	46	6.5%
S 公務(他に分類されるものを除く)	45	6.4%
T 分類不能の産業	5	0.7%

出所：H27 年国勢調査

1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(5)東吉野村の産業

本村の事業所は、147事業所(平成28年現在)であり、うち「製造業」が約27%と最も多く、次いで、「卸売業、小売業」が約16%、「その他サービス業」が約15%などであり、いずれも従業員規模の少ない小規模事業所です。

平成24年と比較すると、事業所数は、4事業所の減少、従業員数は68人の減少となっています。

最も減少の多い業種は、「卸売業、小売業」であり、6事業所(店舗)の減少となっています。

事業所・従業員数

産業大分類	平成24年			平成28年			増減数(H28-H24)	
	事業所数	従業者数	1事業所当たり従業者数	事業所数	従業者数	1事業所当たり従業者数	事業所数	従業者数
全産業(公務を除く)	151 (100.0%)	729 (100.0%)	4.8	147(100.0%)	661(100.0%)	4.5	△4	△68
農林漁業	3 (2.0%)	31 (4.3%)	10.3	3(2.0%)	13(2.0%)	4.3	—	△18
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	18 (11.9%)	77 (10.6%)	4.3	17(11.6%)	72(10.9%)	4.2	△1	5
製造業	38 (25.2%)	239 (32.8%)	6.3	39(26.5%)	226(34.2%)	5.8	1	13
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	—	—	—	—	—	—	—	—
運輸業、郵便業	5 (3.3%)	67 (9.2%)	13.4	4(2.7%)	51(7.7%)	12.8	△1	△16
卸売業、小売業	29 (19.2%)	82 (11.2%)	2.8	23(15.6%)	59(8.9%)	2.6	△6	△23
金融業、保険業	1 (0.7%)	9 (1.2%)	9	1(0.7%)	7(1.1%)	7.0	—	△2
不動産業、物品賃貸業	2 (1.3%)	5 (0.7%)	2.5	2(1.4%)	3(0.5%)	1.5	—	△2
学術研究、専門・技術サービス業	2 (1.3%)	8 (1.1%)	4	3(2.0%)	10(1.5%)	3.3	1	2
宿泊業、飲食サービス業	12 (7.9%)	56 (7.7%)	4.7	12(8.2%)	50(7.6%)	4.2	—	△6
生活関連サービス業、娯楽業	7 (4.6%)	23 (3.2%)	3.3	8(5.4%)	35(5.3%)	4.4	1	12
教育、学習支援業	—	—	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	8 (5.3%)	61 (8.4%)	7.6	8(5.4%)	46(7.0%)	5.8	—	△15
複合サービス事業	4 (2.6%)	16 (2.2%)	4	5(3.4%)	25(3.8%)	5.0	1	9
サービス業(他に分類されないもの)	22 (14.6%)	55 (7.5%)	2.5	22(15.0%)	64(9.7%)	2.9	—	9

出所：経済センサス活動調査

1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(6)東吉野村の観光

美しい清流と深い山々に囲まれた自然あふれる本村には、霧氷で有名な高見山への来訪を始め、登山やハイキング・トレッキング、温泉、キャンプ、鮎釣り・あまご釣り、山村体験など、多くの人々が来訪しています。

さらに、675年(天武4年)に四郷川、高見川、日裏川の合流点に水の神として創設された「丹生川上神社」をはじめとする寺社や、天誅組の終焉の地、また日本最後のニホンオオカミの捕獲地を訪ねる人もいます。

主な観光施設等の入込客数は以下の表のとおりで、平成29年では多い順に高見山、たかすみの里、明神平となっています。

なお、平成28年4月には丹生川上神社を含む村内の資源が「日本遺産」として認定され、来訪者数が伸びています。

東吉野村の観光スポット



主な観光施設への入込客数

施設	H25	H26	H27	H28	H29
東吉野ふるさと村	10,743	8,841	13,147	9,812	9,953
東吉野やはた温泉	18,688	17,306	18,717	19,173	18,156
たかすみの里	37,485	37,645	38,477	38,854	36,820
東吉野キャンプ場	1,154	608	1,041	987	2,639
丹生川上神社	18,240	20,130	25,760	30,800	10,500
明神平	23,712	23,830	23,144	24,155	26,107
高見山	54,336	54,495	57,913	58,090	56,394

※丹生川上神社は例祭を含む
出所:村調べ

1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

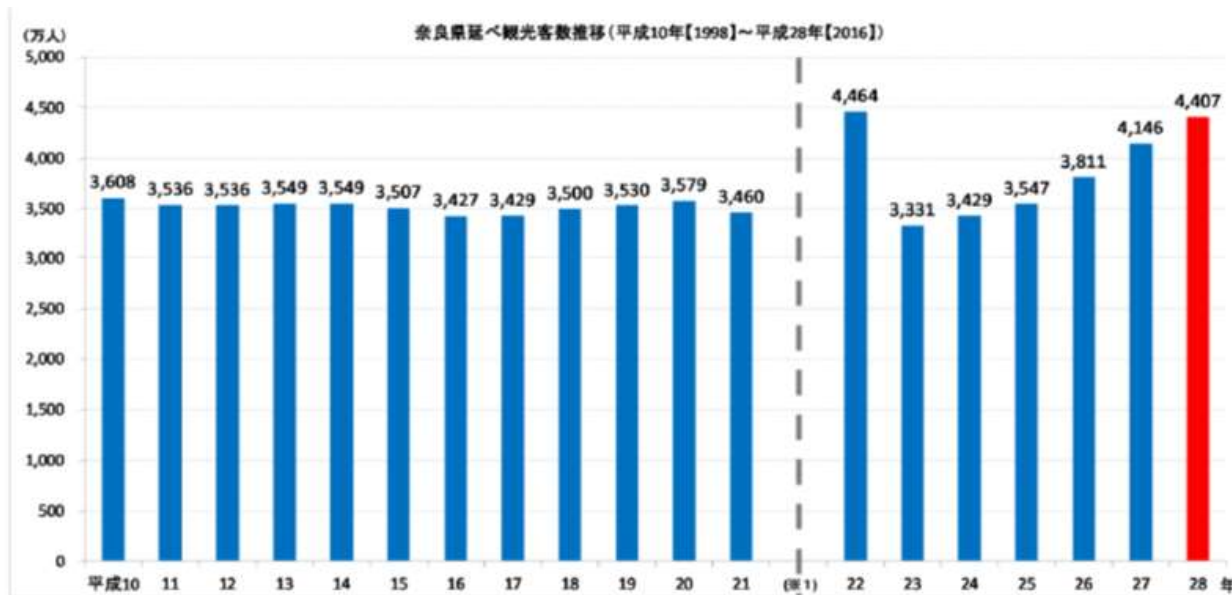
(7) 東吉野村を取り巻く観光状況

奈良県の観光客数は、平成28年に4,407万人で、近年増加傾向となっています。

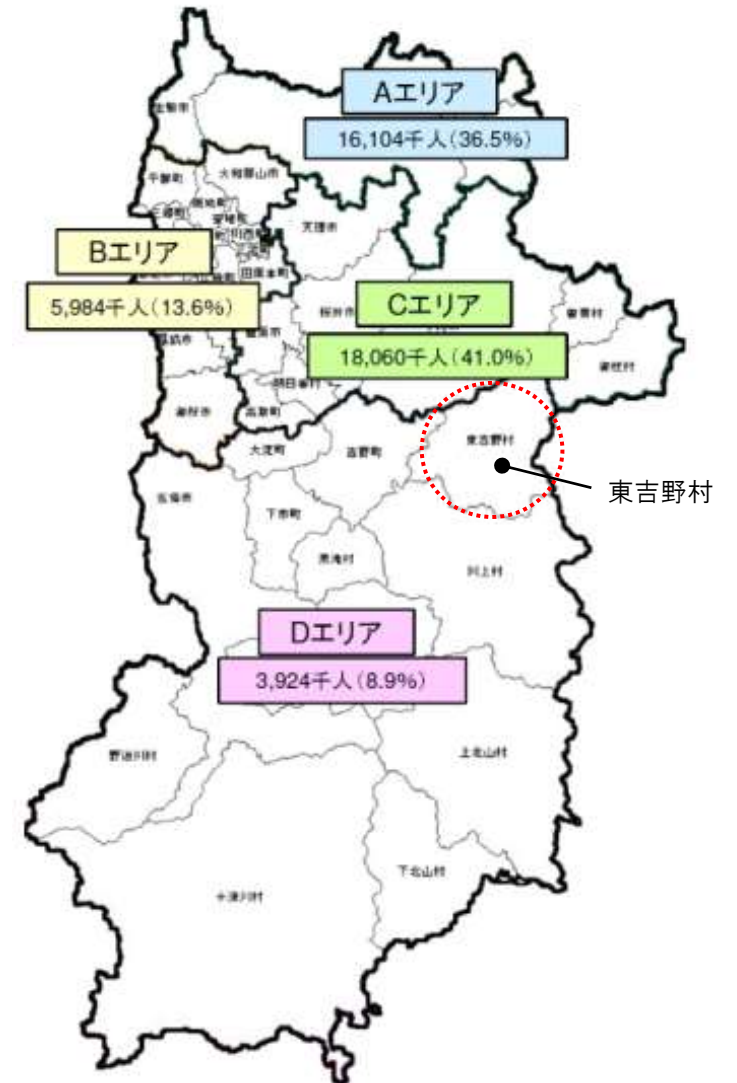
エリア別で見ると、東吉野村が属しているDエリアは、平成28年で3,924千人ですが、本村はDエリアの北東端にあるため、県内で最も観光客数の多いCエリアと連携し、誘客に結びつけることも考えられます。

なお、訪日外国人は1,654千人(平成28年)となっており、近年増加傾向です。

奈良県への観光客数の推移



エリア別の観光客数(平成28年)



出典:奈良県観光客動態調査報告書(平成28年)

1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(8)関連する政策・計画等

■東吉野村第3次基本構想(平成22年度策定)

- ・平成32年度を目標年度とした村の最上位計画。
- ・村づくりの基本理念として、①夢と希望のもてる村づくり、②安全安心に暮らせる村づくり、③環境にやさしい村づくりを設定。
- ・平成32年の将来像として「笑顔あふれる、木と水のふるさと」を設定。

○東吉野村第3次基本構想「東吉野村みんなで村づくり構想」

(平成23年～32年度)

【施策大綱】

1 活力とにぎわいのある村づくり

- ・住民が、産業及び地域経済の振興により、にぎわいを実感し、いつまでも住み続けられる村、誰もが住んでみたいと感じる村づくり

2 子どもの笑顔と学びのある村づくり

- ・子どもをはじめとする住民が、誇りと生きがいと笑顔を持ち続け、こころの豊かさを感じることができる村づくり

3 生涯健康で安心な村づくり

- ・住民が、日々の生活を健やかに安心して暮らすことができ、やすらぎと憩いを実感できる村づくり

4 環境にやさしい安全な村づくり

- ・環境にやさしく、住民が、安全かつ快適に生活できる村づくり

5 住民みんなの村づくり

- ・住民、事業者等及び行政がめざすべき村の将来像を共有し、役割分担と協働による村づくり



■東吉野村人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27年度策定)

【人口ビジョン】

- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計では、本村の平成72年(2060年)の人口は326人と見込まれている。
- ・転出抑制とともに、出産や子育てしやすい村づくりを進めることで出生率の向上と子育て世代の移住を促進し、活力ある村の維持に努める。
- ・しかし、現在の人口から大きく減少することはやむを得ないことから、平成72年(2060年)の目標人口を800人程度と設定。

【まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・人口ビジョンで示した目標を達成すべく、平成27年度を初年度とした5年間の計画。目標年度は平成31年度。
- ・関係するおもな内容は以下のとおり、特に小川地区はオフィスキャンプがあるためその取組の成果が問われます。

○成果指標

成果指標	平成26年度実績	平成31年度目標
オフィスキャンプ東吉野の利用者数	—	1,500人 ※
サテライトオフィスの誘致数	—	3社 ※
新規起業者数	—	10人 ※
観光入込客数	24万4,460人	27万人
村内への転入者数	200人 ※※	250人 ※
空き家バンクによる契約件数	3件	20件 ※
新たな特産品の開発数	—	10件 ※

※平成27年度からのべ ※※平成22年度からのべ

○おもな取組

- ・ふるさとテレワーク実証実験
- ・クリエイティブビレッジ構想の推進
- ・貸しスペースの整備
- ・wi-fi環境の整備
- ・天誅組イベントの開催
- ・美緑の森づくり事業
- ・友好都市との交流
- ・活用可能な空き家の情報提供
- ・空き家の改修費の助成
- ・シェアハウス、ゲストハウスの整備
- ・インターネットを活用した移住情報の提供

1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(8)関連する政策・計画等

■奈良県南部振興計画(平成 27 年度策定)

奈良県では、奈良県南部振興計画において、本村を含む県南部地域を「頻繁に訪れてもらえる地域になる(交流の促進)」「住み続けられる地域づくり(定住の促進)」ことを目標とした施策を推進しています。

○奈良県南部振興計画(平成 27 年度～平成 32 年度)

～頻繁に訪れてもらえる地域になる(「交流」の促進)～

～住み続けられる地域づくり(定住の促進)～

1 訪れてみたくなる地域づくり(交流の促進)

(1)魅力を発見する、創る

・特色ある観光基盤の整備を推進し、南部地域の魅力を向上させます。

(2)知ってもらう

・観光客数を増やすとともに南部地域のファンを増やすため、地域の情報発信を強化します。

(3)訪れてもらう、体験してもらう

・観光客数を増やすため、オフシーズンのイベントの開催や、おもてなしの向上などを進めます。

2 住み続けられる地域づくり(定住の促進)

(1)働きやすくする

・働く場所を増やすため、農林業の振興や企業誘致などを進めます。

(2)暮らしやすくする

・健康・医療・福祉・介護の充実などを進め、南部地域で「住みたい」「住みやすい」と思う人の割合を増やします。

(3)いざというときに備える

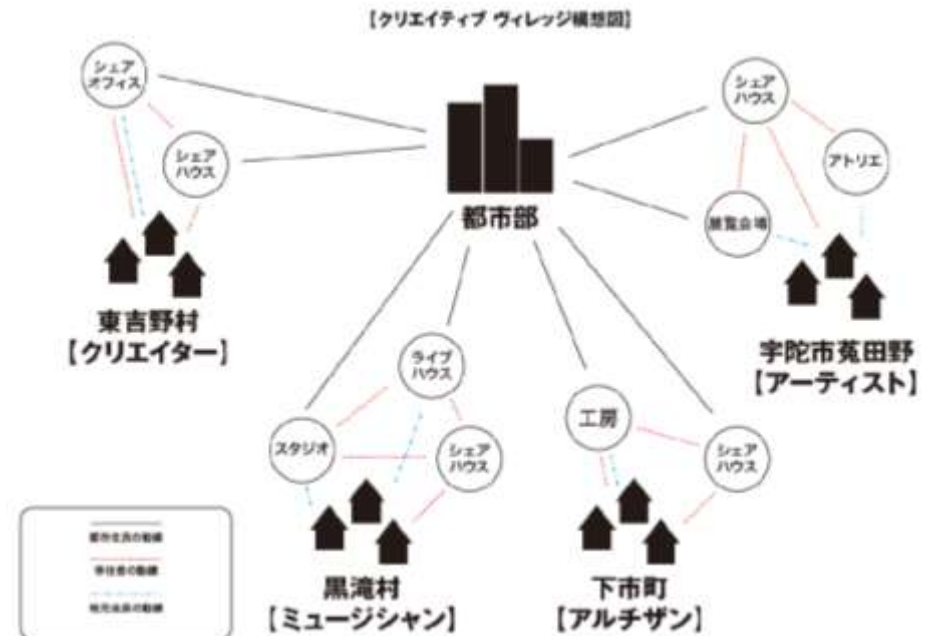
・災害による死者をなくす、人命を守ることを最大の目標に、できる限り被害を減少させます。

(4)移り住んでもらう

・南部地域への二地域居住者・移住者を増加させます。

■奥大和クリエイティブビレッジ構想

- ・奈良県移住・交流推進室と4つのモデルとなる町村が連携し、場所を選ばず働けるクリエイターに移住のターゲットを絞り、平成 25 年より取組を開始。
- ・東吉野村では、「クリエイター」にターゲットを絞って移住者を呼び込んでいる。
- ・空き家を活用し、移住希望者が移住後の仕事の様子を体験できるシェアオフィスを平成 27 年3月に設置。先行した移住者をキーパーソンとして、シェアオフィスの企画から、運営、広報まで一貫して委託。
- ・それにより計 28 名が移住しており、うち 10 名がクリエイター。



1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(9)関連する取組の状況

■「美緑の森づくり」による都市部の企業との連携

- ・都市部の企業により村内の森づくりを支援する制度として「美緑の森事業」を平成 22 年に創設。
- ・その第 1 号として、友好都市である堺市にあるコスモ石油が村と協定を締結し、小川地区にある村有林で森林整備に参画。現在も継続中。



■奈良女子大学との交流・連携

- ・平成 28 年 10 月 17 日に村と協働連携に関する基本協定書を締結しました。
- ・奈良女子大学共生科学研究センターの分室が村内の旧四郷小学校にあり、河川の魚類、水生昆虫等の生態学的生理学的研究や、大学の野外実習、中学・高校生向け野外実習等を行っています。
- ・大学生による、夏休みの小学生向けの学習支援や、研究室として、小川地区のまちづくりの調査研究活動も行っています。

■柚子の里づくり

- ・平成 24 年度より、柚子を奨励作物として村内農家に配布し、新たな地域特産品生産による、農家の生産意欲や所得の向上、耕地の有効活用や遊休耕地の解消に取り組んでいる。現在、1,000 本以上が栽培されています。
- ・平成 29 年 12 月にオープンした小さな道の駅ひよしのさとで加工し、商品化されています。

■東吉野村マスコットキャラクター「ひよしちゃん」

- ・デザインとネーミングの全国公募を行い、平成 25 年 11 月にマスコットキャラクターを設定しました。ニホンオオカミをモチーフとしています。
- ・絵本制作などニホンオオカミに関するさまざまな取り組みが実施されています。



■映画の撮影

- ・平成 28 年に東吉野村を舞台にした映画「東の狼(おおかみ)」が撮影。ニホンオオカミをモチーフとし、キューバ人の監督が、河瀬直美のプロデュースのもと撮影しました。平成 30 年 2 月から全国の映画館で上映。



■小さな道の駅「ひよしのさとマルシェ」が開設

- ・平成 29 年 12 月に、村の玄関口である鷲家の国道 166 号沿いにオープン。
- ・村特産のユズの加工品や農産物、焼きたてのパンを販売し、高齢者が日用品を購入できるコンビニエンスストアも入っています。
- ・簡単な飲食機能や、農家による直売機能、ユズやよもぎなど村の特産品を加工する機能も備えており、今後の活用が期待されます。



■地域おこし協力隊

- ・これまでから継続的に、地域おこし協力隊を採用しており、平成 29 年度で 5 人が活躍しています。
- ・近年は特技を持った方を条件に募集しており、仏師やコミュニティナースなど特殊な技能を持った方が活躍しています。

■移住者の状況

- ・村の空き家バンクを利用した移住者は、18 世帯 31 人となっています。特徴としては、デザイナーやカメラマン、家具職員や私設図書館開設者、仏師、コミュニティナース、陶芸家などユニークなクリエイター等が多くなっています。

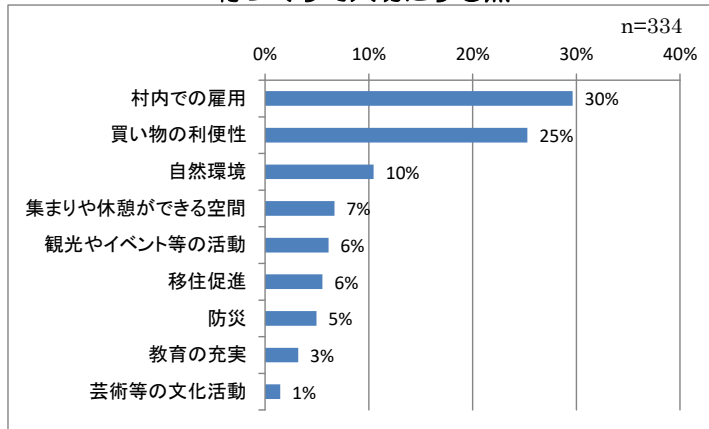
1 小川地区を取り巻く状況(外部環境)

(10)住民意識

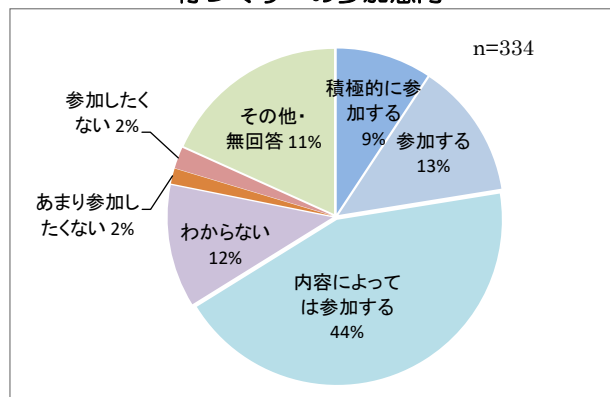
村づくりで大切にしたい点は、「村内での雇用」(30%)と「買い物の利便性」(25%)を上げるものが多く、村内に必要な施設としては、「生鮮食品店」「日用品店」「診療所」「福祉施設」などがあげられています。

村民の村づくりへの参加意向は、「積極的に参加する」が 9%、「参加する」が 13%、「内容によっては参加する」が 44%と7割近くが、参加意向を有しており、参加したくないは4%にとどまっています。

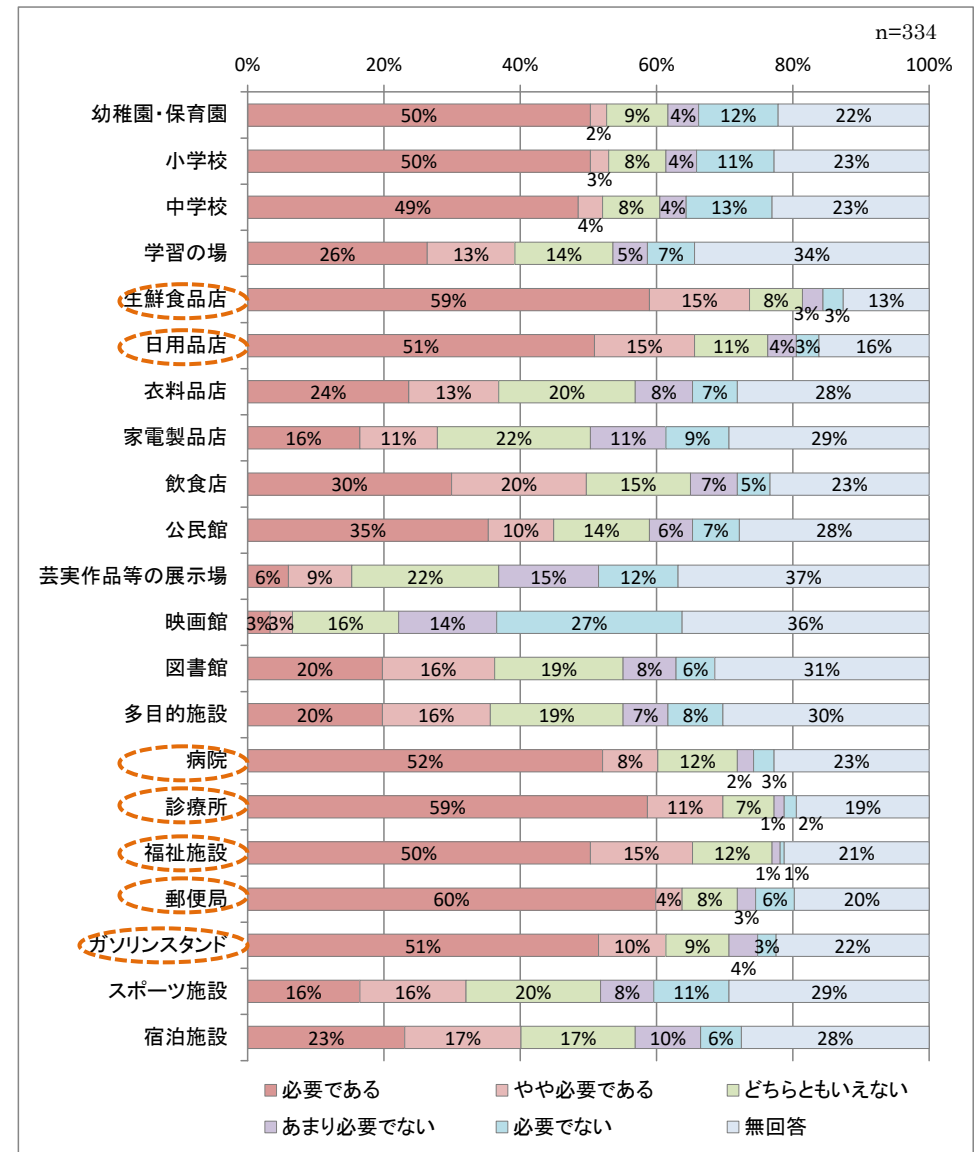
村づくりで大切にする点



村づくりへの参加意向



必要な施設



※本調査は、奈良女子大学が平成 28 年 11 月に実施。村民 20~80 代の各年代で 100 人に無作為に配布。334 件回収。

2 小川地区の現状と課題(内部環境)

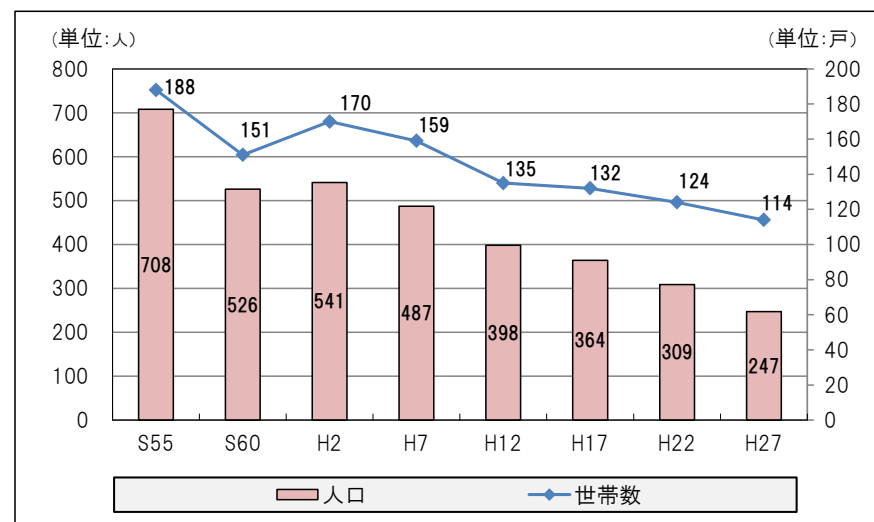
(1)小川地区の位置と交通・道路状況

- ・小川地区は、村の西部に位置し、河川では高見川と鷲家川の合流点、道路では、県道吉野東吉野線と県道大又小川線の結節点を地区内に有しています。
- ・村外からの交通アクセスは、自動車か近鉄榛原駅と村役場を結ぶ奈良交通のバスがあります。一日に榛原駅行きが7便、村役場行きが6便です。
- ・村内の交通手段は、自動車かコミュニティバス「ふるさと号」です。

(2)小川地区の人口・世帯数

- ・小川地区の平成 27 年 10 月 1 日現在の人口は、247 人、世帯数 114 世帯である。人口減少が続いており、過去 5 年間でも、人口が 62 人、世帯数 10 世帯の減少となっています。

小川地区の人口、世帯数の推移



出所：国勢調査



2 小川地区の現状と課題(内部環境)

(3)小川地区の公共施設、土地利用、産業

【公共施設】

- ・移住拠点である「オフィスキャンプ東吉野」が立地しており、年間 1000 人以上が移住の相談、シェアオフィス、視察等で来訪し、利用しています。
- ・東吉野村役場が小川地区の近くにあり、それに付帯する駐車場や住民ホールもあります。そのため、連携することにより、来訪者には役場の駐車場を利用したり、大人数で集まる催し等は住民ホールや役場前広場を活用することができます。
- ・東吉野小学校が小川地区の近くにあるため、放課後の子ども向けのサービスや地域等との交流活動などの施設として捉えることができます。

【土地利用等】

- ・小川地区は、急峻な山林と高見川に挟まれた間のわずかな平地部分に、商店や事業所、住宅、公共施設等が密集する土地利用です。
- ・多くの空き家が発生しており、目視レベルで日常的に住んでおられない家屋は 30 戸以上となっており、今後も増えていくと予想されます。ただし、村の空き家バンクに登録するなど、実際に利用できる、あるいは利用意向のある空き家は少ない状況で、その扱いが今後の課題です。

【産業】

- ・昭和 30~40 年代は村一番のにぎわいのある商店街でしたが、人口減少に伴い、空き店舗が増えています。
- ・それでも現在でも村で一番の商業・サービス施設の集積地であり、銀行や和菓子屋、飲食店、服飾屋、医院、雑貨屋、酒屋などが軒を連ねています。
- ・平成 29 年 7 月には地域の賑わい拠点施設として「KAMEYA」がオープンし、飲食店のチャレンジショップと、小川のまちづくり協議会の拠点機能として利用されています。今後のさらなる活用が期待されます。



2 小川地区の現状と課題(内部環境)

(4)小川地区の観光、地域資源、景観

【観光】

- ・観光関係では、天誅組終焉の地の証である石碑が商店街に沿っていくつか立っており、それを見学を訪ねる人もいます。また、天誅組の催しも毎年継続的に役場の住民ホール等で開催されています。
- ・地区周辺には、日本で最後に発見され、イギリスの博物館で剥製が展示されているニホンオオカミのブロンズ像、えびす神社、この地を治めた小川氏の居城であった小川城址もあります。
- ・その他、河川にまつわる河童伝説や夫婦岩などもあります。

【地域資源】

- ・風格があり活用できそうな空き家・空き施設(旧村役場、子どもの城、旭亭、元しようゆ屋等)
- ・比較的新しく活用できそうな建物(旧 JA 小川支店)
- ・コスモ石油が美緑の森づくりを行っているフィールド「コスモの森」
- ・吉野杉・檜をふんだんに使った吉野中央森林組合の建物

【景観】

- ・歴史を感じさせる建物が連なり、ゆるいカーブを描いた商店街のまちなみ景観
- ・高見川と鷲家川の合流点を含む、河川の開放感と急峻な山林に囲まれた景観
- ・高見川の畔に立つ樹齢 150 年以上といわれるケヤキ
- ・旭亭とその裏側の高見川との間のオープンスペースの開放感
- ・山林の麓に佇む旧村役場のおしゃれな建物
- ・旧村役場から望む小川地区の眺望風景



旧村役場



旧村役場内部



旧村役場からの眺望



旧村役場の横の子どもの城



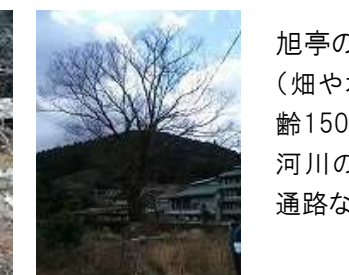
元JA小川支所



旭亭(旧料理旅館)



旭亭の裏側(高見川側)



旭亭の裏側と高見川の間(畑やオープンスペース、樹齢150年といわれるケヤキ、河川の眺望、KAMEYAへの通路など魅力的な空間)

2 小川地区の現状と課題(内部環境)

(5) 地域住民と移住者等の意向

小川地区のまちづくり協議会の役員へのヒアリング及び、奈良県一町一村まちづくり構想「小川地区まちづくり構想」策定時(平成 26～27 年)のワークショップで出された意見、及び移住者等の意向(平成 30 年2月8日開催の移住者等ワークショップより)は以下のとおりです。

■ 地域住民等の意向

【地域の魅力】

- 自然
 - ・ 川が広くキレイ。子どもが水遊びを安全にできる
 - ・ コスモの森の取組
- 建物
 - ・ 旧村役場、子どもの城
 - ・ 旧旭亭旅館、蔵、元醤油屋などの建物
- 歴史
 - ・ 天誅組、小川城址
- 祭り
 - ・ えびす神社 2月11日 もちまきを行う
 - ・ 氏子 10月16日(体育の日)
- 郷土料理
 - ・ アメゴ、あゆ、節句のお菓子(でんがらだんご、ちまき)
 - ・ 柿の葉ずし、よもぎのひし餅、いももち(里芋、あんこ)
 - ・ やまぶきの佃煮

【地域の問題】

- 空き家が増えている
- 駐車場がない
- 飲食する場所がない
- 高齢者が集まれる場所がない
- 観光の看板が目立たない
- 河原のバーベキューのマナーの悪さ。ごみ問題
- バーベキュー客が地元にお金を落としてくれない
- 鮎釣りの人気なくなった



■ 移住者等の意向

① 移住して気付いた東吉野村・小川地区での暮らしの良さ

- ・ 生活リズムが整い、身体にも良い。時間にゆとり、自由な時間が増えた。
- ・ 人のあたたかさ、自然に近い
- ・ これまでのつながりに「加えて」、村でのつながり・コミュニティが広がっている。

② 移住希望者に合った住宅の供給が不足

- ・ 移住希望者が継続的に存在しているが、適切な住宅の提供が困難になりつつある(高コスト・移住者ニーズに合わない・物件の不足)。

③ 移住のきっかけとなる経験・機会の有効性

- ・ 山村留学や研究で訪問など、移住者には東吉野とつながるきっかけが子どもや若い時期にあった。
- ・ 子どもを通して親世代が村を知る機会があれば、村が移住先の選択肢になる可能性がある。

③ 東吉野にしかない教育の実現可能性

- ・ 村内の子どもたちの教育環境への不安(少人数・特定の集団の中での学び等)、村外の子もたちと関わる・学びあう場も求められている。
- ・ 村の強みとして奈良女子大学からの学習支援の存在、移住者や地域おこし協力隊の仕事に触れる、出会う、教える機会提供ができること、村外の子もや大人にとって魅力的な学び(村の暮らしの知恵や仕事、自然、クリエイター等)の提供ができることがある。

④ 移住者等、若者のやりたい仕事を実現できる環境

- ・ 自分のやりたい仕事を実現し、生活できるようにしていきたい
- ・ 移住者同士、仕事を支えあう組織が必要。

⑤ 移住者・村民・来訪者の交わる拠点

- ・ 今ある小さな拠点(かめや等)を村外への発信、村内外の人との交流の拠点としてさらに活用する。
- ・ 大きな拠点をつくる必要もあるが、現時点では難しい(まずは今ある拠点活用から広げる)

⑥ 村の情報発信

- ・ 村の魅力・情報発信も重要

⑦ 小川地区をきっかけに村全体を活性化し、波及させていく

- ・ 人が集まり、村の雰囲気が変わると、村民も意識も変わるはず。
- ・ 移住者だけでなく、村内の人が関わる機会を増やす
- ・ 地域内経済の活性化



2 小川地区の現状と課題(内部環境)

(6)小川地区のまちづくりに関する近年の動き

○「小川のまちづくり協議会」設立(平成 27 年4月)

奈良県一町一村まちづくり構想策定「小川地区まちづくり構想」を踏まえて、小川地区のまちづくりを住民主体で進めていくための組織が設立しました。

○「オフィスキャンプ東吉野」の開設(平成 27 年 3 月)

東吉野村では、芸術家やデザイナーらの移住を呼びかける「クリエイティブビレッジ」構想を進めており、移住者向けの支援を行っています。

その拠点として、当地区の古民家を活用し、平成 27 年3月にオープンした「オフィスキャンプ東吉野」が整備され、通算 4,500 名を超える来訪者と 10 組 18 人の移住が実現しています。



▲オフィスキャンプ東吉野

○地域の賑わい拠点施設『かめや KAMEYA』の開設(平成 29 年)

この施設は、2つの建物からなり、1つは、平成27年 4 月に地元住民主体で立ち上げた「小川のまちづくり協議会」の活動拠点施設とし、地元住民が気軽に集える場所、また来訪者や移住者の方が地域住民と交流できる場所として活用するものです。もう1つは東吉野村での飲食店の創業を支援する「チャレンジショップ『KAMEYA』」として平成 29 年7月にオープンしました。



小川のまちづくり協議会
拠点施設



チャレンジショップ
「かめや KAMEYA」



山と川を眺めながら
食事できるテラス席

▲地域の賑わい拠点施設『かめや KAMEYA』

小川地区の近年の動き

年次	小川地区	関連事項
H9 (1997)	東吉野村役場新庁舎落成	
H18 (2006)	東吉野小学校校舎新築 (小川+高見)	
H19 (2007)		吉野中央森林組合本所新築
H20 (2008)		東吉野幼稚園発足 (小川+高見)
H22 (2009)		美緑の森 (小川地区の山)。コスモ石油 (堺市) が森林整備に参画。H22 から継続中。
H23 (2011). 3		第 3 次基本構想策定「笑顔あふれる、木と水のふるさと」
H24 (2012)		「柚子の里づくり」スタート
H25 (2013). 11		村キャラクター「ひよしちゃん」
H27 (2015). 3	奈良県一町一村まちづくり構想策定「小川地区まちづくり構想」	
H27 (2015). 3	オフィスキャンプ開設	
H27 (2015). 4	小川のまちづくり協議会設立	東吉野こども園開園
H28 (2016). 10	奈良女子大学連携・協力協定締結 小川地区のにぎわい再生に向けた調査	映画撮影「東の狼」
H28 (2016). 3		人口ビジョン・総合戦略策定
H29 (2017). 7	地域の賑わい拠点施設『かめや KAMEYA』開設 (2 店舗)	
H29 (2017). 12		小さな道の駅「ひよしのさとマルシェ」開設
H30 (2018)	ゲストハウスの開設予定	

2 小川地区の現状と課題(内部環境)

(7)先行計画における位置づけ

・平成 27 年3月に奈良県一町一村一まちづくり構想策定により「小川地区まちづくり構想」を策定し、今後の地区のあり方について以下のように描きました。

■奈良県一町一村一まちづくり構想策定「小川地区まちづくり構想」(H27.3)

○基本的考え方

考え方①: 東吉野村の中心部という役割も踏まえ、**住民が楽しく暮らして**いくまちづくりに加えて、**にぎわいや活性化**を追求する。

考え方②: **住民の定住**を基本に、小川地区の暮らしを発信し、シェアオフィスを活用し、**移住の促進**を図る。
・目標のめやすとして、若くて働ける移住者を10年間で50人増やす。
・例えば、4人家族と単身者1人が、毎年1組ずつ増えると、10年間で50人になる。

考え方③: **観光**については、マイナスだけのものは排除するが、地域の活性化や交流や定住につながるように、**うまく共生・活用**していく。

考え方④: はじめから完成形をめざすのではなく、やりたい人が集まり、関わり、**徐々に**つくっていく

○小川地区のめざす姿

つながり にぎわう 小川のまちづくり

○実現に向けた取組

①子どもの城活用プロジェクト

小川地区が所有し、多くの本やおもちゃが残る「旧子どもの城」を活用し、村の子どもが自由に遊び、親子が楽しく交流できる場をつくります。

②シェアオフィス連携プロジェクト

「クリエイティブビレッジ構想」の拠点であるシェアオフィスを移住者の仕事場としてだけでなく、住民の交流の場、空き家などの情報発信の場など、地域の拠点として活用を図ります。

③空き家・空き店舗活用プロジェクト

地域が主体(事業主体)となって自分たちのために空き家や空き店舗を活用します。さらに、それらが起爆剤となって、移住者などによって活用が促進されることをめざします。

④空き家・空き店舗バンクサポートプロジェクト

村にも空き家バンク制度はありますが、登録している空き家数が少ないこと、行政としての立場から踏み込んだ支援が難しいことから、空き家の持ち主や地域の情報が伝わりにくいこと、マッチングが図りにくいという課題があります。協議会が主導となり、移住希望者と持ち主の意向をふまえてサポートすることで、空き家活用や移住促進を図ります。

⑤歴史・文化、自然環境を活かした観光・交流促進プロジェクト

小川地区には、歴史や文化的な魅力が多くあるとともに、自然豊かな環境が特徴です。この強みを活かして、観光客を呼び込むとともに、地域にメリットがある仕掛けづくりを進めます。

3 小川地区のまちづくりの課題

(1) 小川地区の強みと弱みと取り巻く状況

これまでの現状分析を踏まえると、小川地区の強みと弱み、小川地区を取り巻く機会と脅威は以下のとおり整理できます。

■小川地区の強みと弱み(内部環境)

強み(Strengths)	弱み(Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> ①大都市部からほどよい距離感の自然が豊かな地域に立地 ②役場、銀行、商店街など村民が集う村の中心部 ③天誅組終焉の地、ニホンオオカミの像、歴史を感じさせる町並みなど観光面での可能性がある ④クリエイティブビレッジの拠点の「オフィスキャンプ」やその展開で生まれた「かめや」の立地 ⑤地区内への移住の進展(クリエイターを中心とした移住者と魅力的な移住受入人材の存在) ⑥風格があり活用できそうな空き家・空き施設の存在 ⑦高見川とまちとの間の魅力的な空間 ⑧小川のまちづくり協議会などまちづくりの取組の進展 ⑨東吉野にしかない教育の実現可能性(奈良女子大学学生の学習支援、村の暮らし、知恵、クリエイター等移住者の仕事、自然等のポテンシャルの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ①担い手となる住民の人口減少、少子高齢化の継続的進行 ②空き家や商店の廃業の継続的進行、維持管理が問題 ③住民、買い物客、観光客等が利用できる駐車場が少ない ④河川等でのBBQの来訪者のごみ放置やマナーの問題 ⑤観光面での受け入れ体制、お金を落とす仕組み、インフラ整備等が未達 ⑥地区への道路アクセスや公共交通手段が十分ではない ⑦比較的活用しやすい空き家・空き施設の減少による移住者等向け住宅供給が不足(高コスト・活用希望者のニーズに合わない) ⑧一定数の雇用を生み出す企業等の不足

■小川地区を取り巻く状況(外部環境)

機会(Opportunities)	脅威(Threats)
<ul style="list-style-type: none"> ①農山村地域への移住・二地域居住等へのニーズの高まり ②奥大和クリエイティブビレッジ構想や総合戦略の推進 ③村への移住者や地域おこし協力隊の増加(移住のきっかけとなる経験・機会の有効性) ④インバウンド客も含めた農山村地域への観光・交流体験ニーズの高まり(丹生川上神社等の日本遺産への認定等) ⑤村の観光交流拠点としての「小さな道の駅」のオープン ⑥村のキャラクターや映画撮影、奈良女子大との連携、美緑の森づくりなど都市部への発信や関わりの取組 	<ul style="list-style-type: none"> ①村内の人口減少・少子高齢化進行による来訪者の減少 ②全国的な人口減少・少子高齢化による観光マーケット自体の縮小 ③地域活性化等の競合相手の出現による競争の激化

3 小川地区のまちづくりの課題

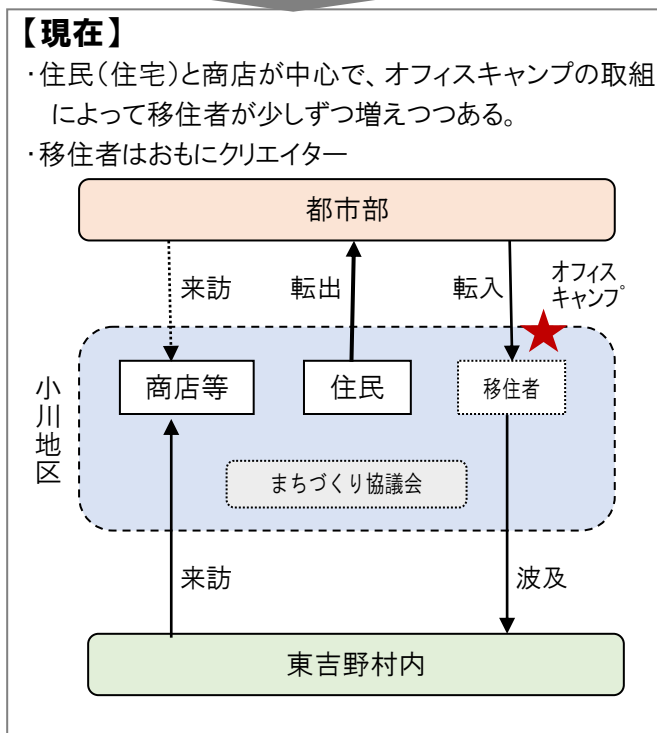
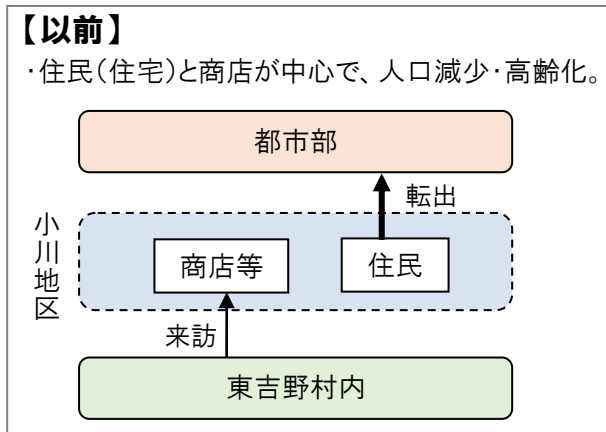
(2) 小川地区のまちづくりの課題

上記の小川地区の強みと弱み、小川地区を取り巻く機会と脅威を対応させると、小川地区のまちづくりの課題は以下のとおりとなります。

		強み	弱み
		<ul style="list-style-type: none"> ①大都市部からほどよい距離感の自然が豊かな地域に立地 ②役場、銀行、商店街など村民が集う村の中心部 ③天誅組終焉の地、ニホンオオカミの像、歴史を感じさせる町並みなど観光面での可能性がある ④クリエイティブビレッジの拠点の「オフィスキャンプ」やその展開で生まれた「かめや」の立地 ⑤地区内への移住の進展 ⑥風格があり活用できそうな空き家・空き施設の存在 ⑦高見川とまちとの間の魅力的な空間 ⑧小川のまちづくり協議会などまちづくりの取組の進展 ⑨東吉野にしかない教育の実現可能性(奈良女子大学学生の学習支援、村の暮らし、知恵、クリエイター等移住者の仕事、自然等のポテンシャルの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ①担い手となる住民の人口減少、少子高齢化の継続的進行 ②空き家や商店の廃業の継続的進行、維持管理が問題 ③住民、買い物客、観光客等が利用できる駐車場が少ない ④河川等でのBBQの来訪者のごみ放置やマナーの問題 ⑤観光面での受け入れ体制、お金を落とす仕組み、インフラ整備等が未達 ⑥地区への道路アクセスや公共交通手段が十分ではない ⑦比較的活用しやすい空き家・空き施設の減少による移住者等向け住宅供給が不足(高コスト・活用希望者のニーズに合わない) ⑧一定数の雇用を生み出す企業等の不足
機会	<ul style="list-style-type: none"> ①農山村地域への移住・二地域居住等へのニーズの高まり ②奥大和クリエイティブビレッジ構想や総合戦略の推進 ③村への移住者や地域おこし協力隊の増加(移住のきっかけとなる経験・機会の有効性) ④インバウンド客も含めた農山村地域への観光・交流体験ニーズの高まり(丹生川上神社等の日本遺産への認定等) ⑤村の観光交流拠点としての「小さな道の駅」のオープン ⑥村のキャラクターや映画撮影、奈良女子大との連携、美緑の森づくりなど都市部への発信や関わり取組 	<p>【強みを活かして機会を勝ち取るためには】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①移住者の小川地区への定着の加速化 ②魅力資源を活かした観光交流の取組の強化 	<p>【弱みを補強して機会をつかむためには】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③多様な発信やつながりを活かした関係人口の増加 ④多様な機会を捉えた、空き家・空き施設の活用
脅威	<ul style="list-style-type: none"> ①村内の人口減少・少子高齢化進行による来訪者の減少 ②全国的な人口減少・少子高齢化による観光マーケット自体の縮小 ③地域活性化等の競合相手の出現による競争の激化 	<p>【強みを活かして脅威を機会に変えるには】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤クリエイティブビレッジなど他にはない特徴的な取組の発信と対応 ⑥まちづくり協議会など推進体制のさらなる強化 	<p>【弱みから最悪のシナリオを避けるためには】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦道路環境及び交通アクセスの向上・強化 ⑧リスクヘッジのために全村的な取組として展開

4 コンセプト・目標

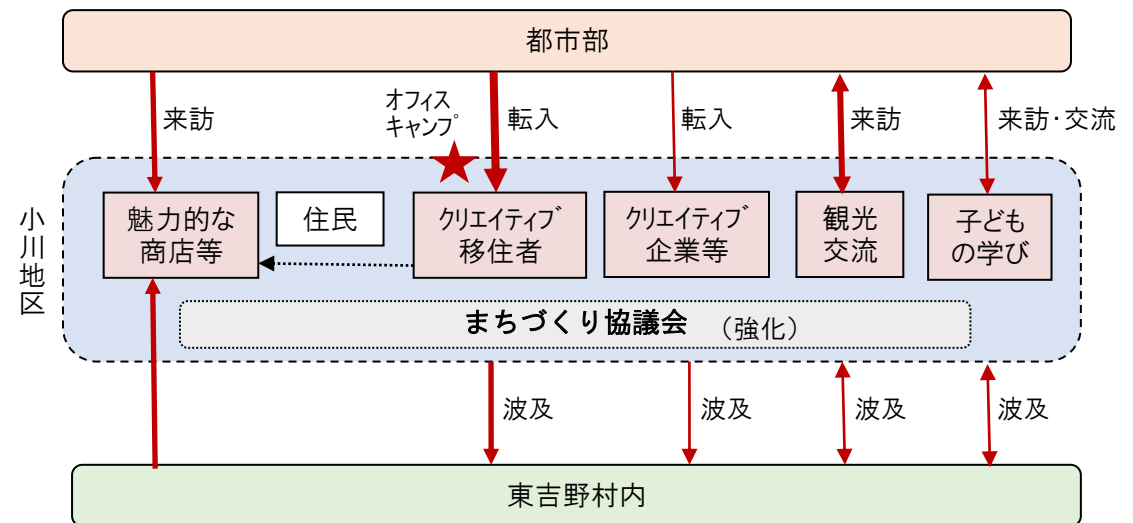
小川地区のまちづくりの課題をもとに、先行計画における位置づけ、地域住民や移住者等の意向を踏まえて、まちづくりのコンセプトを以下のように設定します。



東吉野クリエイティブビレッジの「ベースキャンプタウン OGAWA」 —関係人口・交流人口が増え、多様な人びとが交流・移住し、まちが活性化する—

【将来】

- ・既存の住民(住宅)と商店に加えて、移住促進の取組を強化することにより、移住者を増やす。移住者はクリエイターに加えて、ショップ経営やクリエイティブな企業等も誘致。
- ・そして、地区内やその周辺にある観光資源を活かし、交流人口を増やす
- ・加えて、将来を担う村内外の「子ども」が学ぶ機能を導入し、将来のための人材育成や関係人口の種まきを行う。
- ・これらのため、地元コミュニティの交流を活発化し、住民主体でまちづくりを推進していけるように、まちづくり協議会を強化する。
- ・そして、これら東吉野クリエイティブビレッジのベースキャンプである小川地区から全村に移住・観光交流関係の取組と効果を波及させていく。



5 基本方針

コンセプトを踏まえ、それを実現化するための基本方針について、小川地区のまちづくりの課題と関連づけて示します。

東吉野クリエイティブビレッジの「ベースキャンプタウン OGAWA」

—関係人口・交流人口が増え、多様な人びとが交流・移住し、まちが活性化する—

【小川地区のおもなまちづくりの課題】

①移住者の小川地区への定着の加速化

②魅力資源を活かした観光交流の取組の強化

③多様な発信やつながりを活かした関係人口の増加

④多様な機会を捉えた、空き家・空き施設の活用

⑤クリエイティブビレッジなど他にはない特徴的な取組の発信と対応

⑥まちづくり協議会など推進体制のさらなる強化

⑦道路環境及び交通アクセスの向上・強化

⑧リスクヘッジのために全村的な取組として展開

【小川地区のまちづくりの基本方針】

1 移住・定住を定着・加速化する【オフィスキャンプ作戦】

・オフィスキャンプにより進みつつある移住・定住をさらに定着・加速化する。
・特に、空き家流通を促進するとともに、個人に加えて、企業や大学なども戦略的に誘致するとともに、小川地区でのお店の開業につながる移住者を誘致する。

2 村の内外の子どもの新しい学び舎づくり【スクールキャンプ作戦】

・移住者や村内の子ども対策、村の少子化に伴うファミリー層の村への関係人口の増加をめざし、子どものための新しい学び舎づくりを行う。
・特に、奈良女子大学と連携し、地元×クリエイター×学術の視点で取り組む。

3 観光交流へのチャレンジ【カルチャーキャンプ作戦】

・観光客の来訪はあったものの、取組が十分ではなかったことから、交流人口を増やすための観光交流へチャレンジする。
・特にマスツーリズムではなく、テーマに共感する少人数リピーターを増やしていく。

4 地元まちづくり体制の強化【コミュニティキャンプ作戦】

・各種まちづくりの取組を活発化するために、まちづくり協議会を中心に地元まちづくり体制を強化する。
・特に、KAMEYAでの地域交流の取組を活発化することから広げていく。

5 村全体との連携と交通インフラの向上・強化【ベースキャンプ作戦】

・小川地区が村の中心である位置づけから、小川地区での取組の効果や成果を村全体に波及させることが大切であり、村全体との連携を進める。
・またそれをより効果的にするためにも道路や公共交通など交通インフラを向上・強化させる。

6 基本となる取組

1 移住・定住を定着・加速化する【オフィスキャンプ作戦】

①空き家流通の加速化

- ・空き家の活用を促進する地域機能の構築やその支援

②移住・お店開業等のお試し施設の活用・整備

- ・チャレンジショップの活用促進
- ・宿泊滞在できるゲストハウス、シェアオフィス等の整備

③企業サテライト、大学サテライト等の戦略的誘致

- ・クリエイティブ系、ICT系の企業誘致と空き家の活用・マッチング

④オフィスキャンプの移住促進プログラムのさらなる充実

- ・誘致したいテーマのサロン開催、体験プログラムの開催
- ・先行移住者による移住・起業塾等の開催

⑤仕事や作品等を見せるシェア施設の整備

- ・ギャラリー、工房、オフィスなど、先行移住者のクリエイター等の仕事や作品等を見せる施設の整備

2 村の内外の子どもの新しい学び舎づくり【スクールキャンプ作戦】

①体験プログラムの実施

- ・村の内外の子供たちを対象に、クリエイターや地域おこし協力隊、住民等が持つ知識や技術等を活かした体験プログラムを実施。
- ・奈良女子大学や小川地区のまちづくり協議会等がプロデュース
- ・村内の子供への刺激、村外の子供の村への好感度アップ、クリエイター等の誇りアップ等をねらう。

②スクールキャンプの拠点整備

- ・新しい学び舎として、活用可能性のある遊休施設を整備する。

3 観光交流へのチャレンジ【カルチャーキャンプ作戦】

①観光受け入れ体制の強化

- ・天誅組、ニホンオオカミ、小川城跡、森林、川、ゆず、よもぎなどに関心ある人を受け入れる
- ・観光協会等と連携した案内体制の強化(人材育成等)
- ・案内所の整備(KAMEYAの活用等)
- ・カルチャー講座・サロン等の開催

②観光交流のインフラ整備

- ・まちなみ景観を活かした周辺観光資源を結ぶ歩道、サイン整備

③宿泊拠点の整備・誘致

- ・将来的に活用可能性のある大型の空き家や空き土地・空間等の活用

4 地元まちづくり体制の強化【コミュニティキャンプ作戦】

①小川のまちづくり協議会の強化

- ・各種まちづくりにさらに関わるための体制強化(例:勉強会等開催)

②KAMEYAの活用による地域内交流の活発化

- ・協力隊や移住者等と連携したサロンや勉強会、食事会等の開催

5 村全体との連携と交通インフラの向上・強化【ベースキャンプ作戦】

①村全体への波及と連携の推進

- ・小川地区への移住者の定着促進による村内全体への波及効果(移住)促進
- ・村内観光資源と連携した情報発信や特産品販売(小さな道の駅等)
- ・ICTを活用した村民の健康を見守るシステムの構築

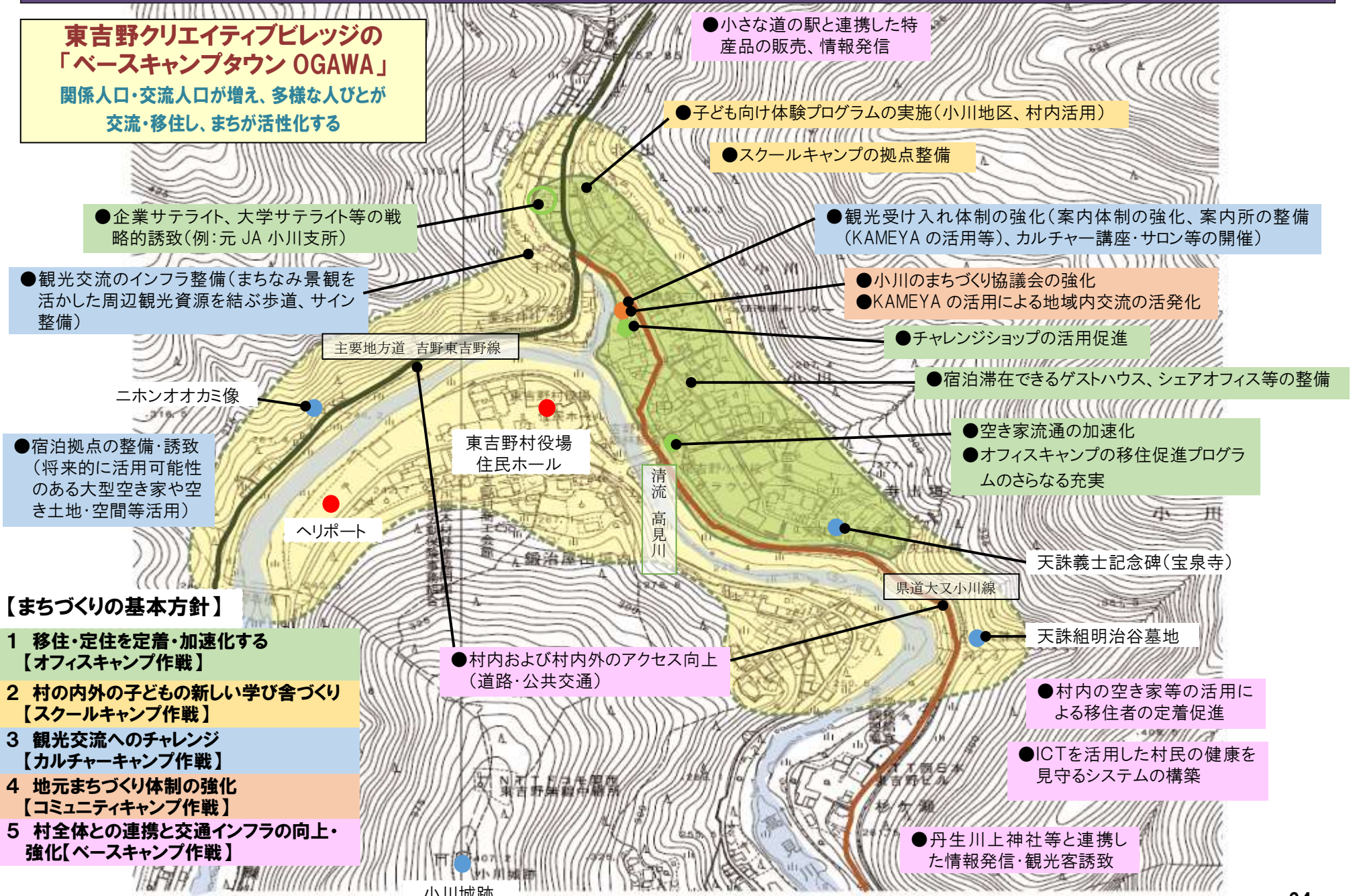
②交通インフラの向上・強化

- ・村内および村内外の交通アクセスの向上(道路・公共交通)

7 まちづくり構想図

東吉野クリエイティブビレッジの「ベースキャンプタウン OGAWA」

関係人口・交流人口が増え、多様な人びとが交流・移住し、まちが活性化する



●企業サテライト、大学サテライト等の戦略的誘致(例:元 JA 小川支所)

●小さな道の駅と連携した特産品の販売、情報発信

●子ども向け体験プログラムの実施(小川地区、村内活用)

●スクールキャンプの拠点整備

●観光交流のインフラ整備(まちなみ景観を活かした周辺観光資源を結ぶ歩道、サイン整備)

●観光受け入れ体制の強化(案内体制の強化、案内所の整備(KAMEYAの活用等)、カルチャー講座・サロン等の開催)

●小川のまちづくり協議会の強化
●KAMEYAの活用による地域内交流の活発化

●チャレンジショップの活用促進

●宿泊滞在できるゲストハウス、シェアオフィス等の整備

●宿泊拠点の整備・誘致(将来的に活用可能性のある大型空き家や空き土地・空間等活用)

●空き家流通の加速化
●オフィスキャンプの移住促進プログラムのさらなる充実

【まちづくりの基本方針】

- 1 移住・定住を定着・加速化する【オフィスキャンプ作戦】
- 2 村の内外の子どもの新しい学びづくり【スクールキャンプ作戦】
- 3 観光交流へのチャレンジ【カルチャーキャンプ作戦】
- 4 地元まちづくり体制の強化【コミュニティキャンプ作戦】
- 5 村全体との連携と交通インフラの向上・強化【ベースキャンプ作戦】

●村内および村内外のアクセス向上(道路・公共交通)

●村内の空き家等の活用による移住者の定着促進

●ICTを活用した村民の健康を見守るシステムの構築

●丹生川上神社等と連携した情報発信・観光客誘致